

大峰山展望台

大峰山展望台 (114.5 m) は、渡半島で最も標高が高い地点に位置しています。この展望台からは、世界遺産の「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群"に含まれている場所のいくつかを見渡すことができます。世界遺産の1つである新原・奴山古墳群は、福津市の上の高台にある古墳群です。これらの古墳は、この地域を統治していた宗像氏の墓で5～6世紀に築かれたものです。展望台の近くには、これらの古墳の写真が展示されています。

この展望台からは相島や大島が見え、晴れた日には聖なる島である沖ノ島も見えます。この展望台周辺の公園は、地元では「東郷公園」として知られています。この公園には、日露戦争(1904～1905年)での日本海海戦を記念した碑があるからです。日本海海戦は、1905年5月27日、福津沖の対馬海峡で行われました。日本の艦隊を率いていたのは、東郷平八郎(1848～1934年)海軍大将でした。この決定的な戦いの間に、ロシア艦隊の2/3は破壊され、日露戦争は終結することになりました。

この展望台と記念碑は、大峰山自然公園の中に位置しています。この自然公園には、大峰山を巡る登山道があり、桜の木と紅葉の木が特徴です。展望台への道沿いには、常緑の樺の木と、大きなタブの木が立ち並んでいます。これらのタブは樹齢約200年だと考えられています。